

領域 5 インフォーマルミーティング議事録

日時：2025.03.18, 18:00-19:00

場所：オンライン

出席者：領域代表・副代表・運営委員を含む 29 名程度

配布資料：スライドを画面共有および、オンラインで閲覧可能にした。

1. 審議・確認事項	2
1-1. (審議) 運営委員の紹介	2
1-2. 領域活性化について	2
1-3. 領域委員会からの報告	3
1-4. 学生優秀発表賞の審査対象	4
1-5. 発表スライド・ポスターの英語化推奨について	5
1-6. (審議) 計算物理領域の試行開始と合同セッションの希望について	5
1-7. (審議) オンライン大会でのポスターセッションのあり方について	6
1-8. 同時翻訳字幕機能の導入	7
2. 案内	7
2-1. 招待講演・シンポジウム・企画講演	7
2-2. 招待講演とチュートリアル講演の区分け	7
2-3. 領域 5 広報用 X (旧 twitter) アカウント	7
2-5. 80 周年記念国際シンポジウム (2026 年 9 月)	7

2-5. オンライン開催時（春季大会）の学生会員の聴講無料化	7
3. その他	7

1. 審議・確認事項

1-1. 運営委員の紹介

- 今期代表・副代表・運営委員の紹介が行われた。
- 次期代表・副代表・運営委員の紹介が行われた。
- 次期代表および次期副代表より挨拶があった。
- 次々期（2025.10～）の運営委員について下記の3名の紹介があり、物理学会に推薦することが承認された。
 - 石井 祐太（NIMS）
 - 北村 想太（東大物工）
 - 松田 拓也（阪大基礎工）

1-2. 領域活性化について

- 運営委員から説明があった
 - 発表件数について
 - 長期的な減少傾向にある。
 - 直近3年ではオンサイトは横ばいであるが、オンラインでは減少傾向が顕著。ポスター発表の比率は20%を切った。
 - 上述の傾向は、他領域でもおおむね同じ。
 - 学生優秀発表賞に誤って口頭発表で応募する学生に関して。

今回は合計 14 件の応募の内、4 件が誤って口頭発表として応募された。またキャンセルが 1 件あった。誤った応募については、すでに十分周知しているため対策はしない。

- 企画講演の提案

- 今回の領域 5 が主複で含まれるシンポジウム・招待講演数は今大会では大幅に増えた。
- オンラインでは海外から講演者を招待できることが件数増加につながっている。

- 領域 5 のキーワードについて

- 第一キーワードだけ選択した人が 5 人いた。その内の 4 人が第三キーワードから選択していた。以前からある傾向であり、第一キーワードでは選択に悩むのかもしれない。現状ではセッション運営には支障はない。
- 第二キーワードは発表件数の減少により選ばれていないものもあるが、概ね満遍なく選ばれている。

1-3. 領域委員会からの報告

- 領域代表から報告があった

- 大会運営委員会（仮名）の新設と開催方法について
 - 大会運営委員会（仮名）の新設と開催方法について説明があった議事録は領域に共有することはできないため、事務局のメモによる説明があった。
- 次回大会のスケジュールについて

- 今大会と同様に例年より申し込みが1ヶ月後ろ倒しになると報告があった。
- 次回大会のプログラムについて
 - プログラムの採択について報告があった。
- その他
 - 計算物理領域の試行について説明があった。
 - 講演概要の英語化には各領域からの意見の報告があった。領域によって意見ばらつきがあった。
 - 領域委員会の開催頻度について、臨時開催の必要性について意見があった。
- 大会運営委員会のまとめ
 - 今後の大会の日程について。オンラインと対面の交互開催、土日を含まない平日4日間の開催で調整が進んでいる。
 - 今回からオンライン開催時の「聴講のみ会員（学生）」の無料化が始まった。
 -
- 「聴講のみ会員（学生）」の無料化について、期日後参加登録は有料になっている理由について質問があった。領域代表から事務局に確認をするということになった。→（確認後）期日後参加登録だと、大会参加資格である大会開催時点での物理学会入会をシステムの都合で確認できない場合があるから。

1-4. 学生優秀発表賞の審査対象

- 文言の微修正について報告があった。
- 前回 IM で審議したし表彰件数条件を、今大会から適用する。

1-5. 発表スライド・ポスターの英語化推奨について

- 前回 IM で決まった通り、英語化は強制ではなく、代表・副代表からの推奨とする。

1-6. 計算物理領域の試行開始と合同セッションの希望について

- 計算物理領域の一般講演は基本的には多領域との合同セッションとする。合同セッションは「高性能計算」・「計算アルゴリズム」・「データ駆動科学」。領域で合意のあったセッションはキーワード・合同セッション一覧にリストさせる。
- メーリングリストによるアンケートでは、全員が3つともキーワードに選べるようにすることに賛同している。
- 領域5のキーワードとしてリストされるのかと言う質問があり、第一キーワードとしてこの3つが選べる。3つのキーワード自体は計算物理領域が決定する。基本的に計算物理領域の単独セッションは組まれないが、計算物理領域主体のセッションは開かれる。
- キーワードとして計算物理領域のキーワードを選択すると、計算物理領域主体のセッションに組み込まれるのかと言う質問があった。基本的には計算物理領域のセッションが組まれ、そこで各領域との合同セッションという括りになるのではないか。プログラムの編成には計算領域とのバッティングは考慮しないという文言が提案書にある。
- ウェブサイト上のキーワード集はいつ修正したらいいのかという質問があった。次回広島大会から試行なので、その発表の応募までではないか。次回のキーワードの編成は一年後の大会のものを決めるので、秋には間に合わないのではないかと（修正；春と秋それぞれで別個に保存される（同期しない）ので、2回連続で修正申請が必要と確認）。キーワードの更新の手続きについては全領域に関連することなので、副代表が本部事務局に問い合わせることになった。→（確認後）本部に確認の結果、更新の作業は何もする必要がないとのこと確認。

- 3つのキーワードともに合同セッションにすることが承認された。

1-7. オンライン大会でのポスターセッションのあり方について

経緯：2025年1月8日から27日で、オンライン開催時のポスターセッションのあり方についてアンケートをとった、その結果において「**オンライン開催に特化した講演形式があるとよい**」という意見を受けて、大会運営委員会は「ポスター発表に変わる発表形式」の導入を検討することになった。領域で、その内容について案を提案してほしいとの依頼があり、今大会のIMで審議にかけた。

- いくつかの提案が挙がった。
 - オンラインのため会場の制限がないので、発表5分・質疑応答25分のような質疑応答に多くの時間を取ったセッションを大量に並列で走らせる。これに対して、学生優秀発表賞の審査が大変なのではないかという意見があった。発表を複数回行うことでカバーできるのではないか。
 - RemoやSpatialChatを使ったvirtual空間でのポスターセッションの開催はどうかという提案があった。発表資料はポスターではなく見やすい発表資料にしたらどうか。これに対して、50人くらいから重くて使えないので、物理学会では無理ではないかという意見があった。
 - オンラインでは、ポスターセッションはなくてもいいのではないかという提案があった。前回の北海道大会では多くのポスターがあったので、オンサイトにポスター発表を溜めているのが現状ではないか。オンラインのポスター発表はショートプレゼンをしたら口頭発表とあまり変わらないのではないか。口頭も含めてオンライン大会は発表が減っているので4日間開催する必要もないのではないか。これに対して発表件数ではなく参加者数も減ってい

るのか、という質問があがった。副代表が大会本部に問い合わせることになった。→（確認後）毎年 6 月と 12 月の会誌の学会報告に、大会の報告を掲載しており、参加者数も掲載されているとのこと。

- 提案があった意見について報告することになった。。

1-8. 同時翻訳字幕機能の導入

- ・大会のオンラインから同時翻訳字幕を導入した。
 - このまま導入で良いとの意見があった。
 - 使ってみて便利だったという意見があった。

2. 案内

2-1. 招待講演・シンポジウム・企画講演

今大会に開催されているシンポジウム、チュートリアル講演・招待講演の案内が行われた。

2-2. 招待講演とチュートリアル講演の区分け

- 区分分けについて前回同様説明が行われた。
- 事前に運営委員に諮るため、その期日は 5 月 20[日]と決まった。

2-3. 領域 5 広報用 X（旧 **twitter**）アカウント

- https://twitter.com/jps_r5div
- デメリットが存在しないため、今後も運用していくことが確認された。

2-4. 80周年記念国際シンポジウム（2026年9月）

- 2026年9月東京大学駒場キャンパスで開催される第81回年次大会の前日（9月13日）に開催することが案内された。

2-5. オンライン開催時（春季大会）の学生会員の聴講無料化

3. その他

若手奨励賞の算出基準について

- 奨励賞の人数の根拠となる発表件数に最近のデータが取り入れられていないのではないかという質問が前回大会のIMであった。代表が問い合わせたところ、確かにこの2年間の情報が反映されていなかった。今後は直近3年間のデータを用いるとのこと。対面開催の発表件数が対象となる。

領域の活性化について

- 他の学会に発表が流れている、若手奨励賞の歴代の受賞者でも物理学会で発表していないという状況も見られる。対策として、若手奨励賞の歴代の受賞者などにシンポジウムで話してもらうのはどうかという意見があった。近年、領域の発表のトピックが狭くなってきているので、回復を図りたい。これに対して、他のセッションの状態を変えずに、シンポジウムだけで効果があるのかという意見が挙がった。
- 原子層物質がキーワードに挙がっていないのはなぜかという質問があった。キーワードにない理由は特にはないが、発表する人がいなくなったということ。